



見えなくたって感じるよ

つながりの糸

糸

新井 皐月

私のマスクは 空色マスク
青くかすんだ 春の空
弟のマスクは 黄色のマスク
一面広がる 春野原
今年の春は 消えた春
毎日流れるニュースでは
命の数を伝えてる
病の足音聞こえれば
不安の糸がからまって
人と人をつないでる
糸がぷつぷり切れた昔
頬をおおった その布で
街にあふれた のっぺらぼう
顔が見えない 私たち
こんなに不安になるんだね
足りないマスクの代わりにと
おばあちゃんが作った布マスク
使い古した 木綿のハンカチ
ほどこいてぬって 糸通す
色とりどりの 春の色



見えなかった あの糸も
吹き込まれた 春の息吹
僕のだよと弟が
つけようとしたり 黄色のマスク
上手に耳にかからない
かわりに私にかけてやる
こもった声で ありがとう
目が糸みたいに細まった
ああ、そうなんだ
のっぺらぼうなんていないんだ
見えないだけで だれだって
そのおおわれた布の下
笑って 泣いて たえている
糸みたいなその目元
人と人をつなぐ糸
切れないよと教えてくれた
病の足音遠のいて
待ちに待った学校へ
やっと会えた友だちに
ちょっとはなれて手をふる
たちまちお互い目が糸に
ほらだいじょうぶ
見えなくなっちゃって感じるよ
私とみんなをつなぐ糸
私と家族をつなぐ糸

養老町発行

「家族の絆 愛の詩」十二集より

確かに絆の糸はある

この詩は、養老町が令和二年
度に募集した「家族の絆 愛の
詩の【小中学生の部】」で、最
優秀賞を受賞した、町内小学六
年生、新井皐月さんの作品です。

さて、私たちは一年中マスク
を着けて生活してきました。感
染対策上、顔の半分以上をしっ
かり覆うようにマスクを着けて
います。まさに、みんな同じ顔
に見えがちで「のっぺらぼう」に
感じてもおかしくありません。

よく知っている人ならマスク姿
でも誰だか分かり、気持ちを推
し量ることができますが、知り
合っていない人だと、そう上
手くはいきません。だから、マ
スクを着けた状態で相手の表情
や気持ちを読み取ったり伝えら
りするのは、大変難しいことで
す。うまく読み取れないと、お
互いに誤解をして、話がかみ合
わないだけでなく、嫌な気持ちに
なったりします。情報量が少な
い分、つい、自分に都合の良い
解釈をしてしまいがちです。コ
ロナ疲れの今はなおさらです。

だからこそ、焦らず、相手の立

場に立って会話や関係を築いて
いくことが重要です。声の大き
さ、抑揚、目のわずかな動きか
ら、注意深く相手の気持ちを読
み取ってみるとマスクの下の表
情がきっと見えてきます。

相手を理解しようとする営み
や思いやりの中から、人権を尊
重する気持ちが芽生えます。見
えなくなった今だからこそ、見
ようとすることで、いっそう相
手を大切に思う気持ちが伝わる
のではないのでしょうか。

切れたと感じる「つながり」は、
確かに見えにくい現状ですが、
決して切れたわけではありません。
これまでの家族や地域のあ
ゆみが、必ず絆という糸で縦に
も横にもつなぎとめてくれるは
ずです。

【お知らせ】

一月に開催予定でした「家族
の絆 愛の詩」の発表会は、新
型コロナ感染症拡大防止のため、
中止としました。なお、別撮り
した、愛の詩受賞者の朗読につ
いては、CCnetにて二月八
日～二月十四日に放映予定です。
ぜひ、ご覧ください。